

2017 年度日本文化体験プログラム（禅寺体験などを中心として）

Japanese Culture Experience Program 2017 (Activities with Local Residents at a Zen Temple)

章 潔

要旨

2013 年度からスタートを切り、今年度が 5 回目となる本プログラムは長崎短期大学国際コミュニケーション学科に在籍している韓国、ベトナム、ミャンマー、台湾の留学生（20 名）と西九州短期大学部の留学生（3 名）計 23 名を、長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷にある亀井山東前寺（真言宗）に連れていき、座禅、かるた、琴などの日本文化体験をするものである。本プログラムを通して、留学生と地域住民に多文化交流・国際理解の機会・場の提供を行うとともに、留学生を主体とする民間レベルでの国際交流活動の一層の促進を図りたい。

キーワード

日本文化体験 留学生

実績報告

I. ①長崎短期大学参加留学生構成（国・地域別、性別）

国籍・地域	男（名）	女（名）	計（名）
ミャンマー	6	2	8
韓 国	2	3	5
台 湾	1	3	4
ベトナム	2	0	2
マレーシア	0	1	1
合 計	11	9	20

②西九州大学短期大学部参加留学生構成（国別、性別）

国籍・地域	男（名）	女（名）	計（名）
スリランカ	1	0	1
フィリピン	1	0	1
ベトナム	1	0	1
合 計	3	0	3

II. プログラム日程表

2017 年 10 月 31 日（火曜日）

時間	内容	備考
13:00	長崎短期大学出発	レンタカー 1 台、公用車 1 台
14:00	東前寺到着	

時間	内容	備考
14:10	入門式	長崎短期大学留学生代表挨拶西九州大学短期大学部平田孝治教授挨拶
14:20	東前寺出発	
14:40	株式会社「和山」見学（波佐見町折敷瀬郷）	工場見学、絵付け体験（留学生へのアンケート調査により、最も興味を持って参加できたのは「絵付け体験」であることが分かった。）
16:00	東前寺に戻る	
16:45	境内清掃、食事の準備	
17:00	清掃終了	
17:30	日本の温泉（波佐見温泉）	行かない留学生は東前寺で待機。
19:00	地域の住民と一緒に食事会	
19:30	片付け	
20:00	座禅、かるた、琴体験	
22:00	自由時間	
23:00	消灯、就寝	

2017年11月1日（水曜日）

時間	内容	備考
06:00	起床	
07:00	勤行、掃除	
08:00	地域の住民と一緒に朝食	
08:30	片付け	
09:00	ミニホームステイ（12グループ）	詳細は表を参照
11:40	東前寺出発	留学生代表「感謝の言葉」
12:40	長崎短期大学到着	
13:10	3限目開始	留学生たちが午後の授業に参加

Ⅲ. 西九州大学短期大学部との連携

2015年7月10日（金）、本学において、西九州大学短期大学部との包括連携に関する協力協定の締結式が執り行われた。この協定は、両短期大学が、教育・研究及び地域貢献活動全般における交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の一層の進展をもって地域社会の発展に寄与することを目的としている。以来、西九州大学短期大学部と本学は、教育・研究・地域社会の発展・両学内施設及び設備の共同利用・FD／SDの共同開催・学生及び教職員の交流などを実施してきた。

2016年9月23日（金）、西九州大学短期大学部の平田孝治教授（食物栄養学科）、田中知恵准教授（食物栄養学科）、馬場由美子准教授（生活福祉学科）、春原淑雄講師（幼児保育学科）御一行らが本学を訪問し、第2回協力協定書に基づく打ち合わせを実施した。その結果、今後多文化支援、留学生支援、アクティブラーニングをはじめとするFD,SDを両校提携のもとに行うことに決めた。

2016年12月20日（火）、筆者は本学事務局の山口佳奈子（留学生支援係）と、西九州大学短期大学部を訪れ、「留学生支援の内容と課題」について発表を行った。西九州大学短期大学部の福本裕二学長をはじめ、食物栄養学科教員3名、生活福祉学科教員2名、幼児保育学科2名、事務局職員11名、計19名が出席した。発表後、留学生募集のルート・方法、入学前教育の概要、短大の留学生の出身国・日本語のレベル、アパートの契約・管

理、学費管理、奨学金の手続き、留学生の就職・進学および交換留学生の単位認定などについて、活発な意見交換が行われた。最後に、平田孝治教授から、来年からは両校の留学生同士の交流をしてほしいとの依頼があったため、今回、本プログラムの合同参加に繋がった。

2017 年 10 月 2 日（月）、本学と西九州大学短期大学部をはじめとする、長崎、佐賀、福岡 3 県の私立大と短大 14 校が、高等教育の質の向上や地域活性化に一緒に取り組む「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム」を発足させた。少子化が進む中、共通する地域の課題の解決にあたり、具体的には健康や医療、福祉、子ども育成などのテーマで、県境を越えた共通授業や共同研究、人事交流を想定している。西九州大学短期大学部と本プログラムへの共同実施は、まさに「プラットフォーム」事業の先頭に立って実践の第一歩を踏み出したと言える。



写真 1 絵付け体験



写真 2 食事の支度を手伝う

（2017 年 10 月 31 日章撮影）

IV. ミニホームステイとコミュニケーションカード

今までの禅寺体験に対する地域住民側の感想、要望についてアンケート調査を行ってきた結果、「グループ交流より、留学生との個別の交流時間を増やしてほしい」という声が多数寄せられた。そのため、本プログラムでは、初めてミニホームステイを計画したところ、12 のホストファミリーの協力を得て、実施することができた。また、留学生の出身国と性別に対する各受け入れ家庭の希望に沿って、留学生を振り分けた。その詳細は下記の表のとおりである（受け入れ家庭の名字記載可の承諾を得ている）。

表 1 ミニホームステイ一覧

No	受け入れ家庭 (氏名は五十音順)	受け入れ留学生 (国籍・性別・人数)	交流内容
1	太田家	台湾女子 2 名	家庭訪問
2	楠本家	フィリピン男子 1 名 スリランカ男子 1 名	椎茸狩り体験 家庭訪問
3	河野家	ミャンマー男子 2 名	陶芸工場見学 家庭訪問
4	古賀家	韓国男子 1 名 台湾男子 1 名	陶芸工場見学 窯見学

No	受け入れ家庭 (氏名は五十音順)	受け入れ留学生 (国籍・性別・人数)	交流内容
5	田口家	ミャンマー女子2名	家庭訪問 黒髪山散策
6	富永家	韓国女子1名	陶器販売所見学 家庭訪問
7	富永家	台湾女子1名 マレーシア女子1名	家庭訪問 折り紙体験(紙の傘) 近辺を散歩
8	中尾家	ベトナム男子3名	家庭訪問 陶芸工場見学
9	馬場家	ミャンマー男子2名	家庭訪問 ヨモギ餅を作る 紫玉ねぎ・花苗の植付け体験
10	福田家	韓国男子1名	家庭訪問 酒造見学
11	松尾家	韓国女子2名	嬉野温泉街散策(足湯など) 家庭訪問
12	水谷家	ミャンマー男子2名	家庭訪問

また、本学の留学生を対象とする事前学習の時に、筆者は以下のポイントについて詳しく説明した。(西九州大学短期大学部の留学生については、平田教授に学習資料をメールで送り、事前説明を依頼した。)

- ①ホームステイをするときは、その家庭の生活様式を理解し、尊重することが大切である。
- ②積極的に行動し、分からないことは遠慮せずに質問する。
- ③コミュニケーションが最も大切である。語学力が不足しているからと躊躇せずに、身振り手振りでも構わないから積極的に交流する。

そして、筆者は自己理解、他者理解、相互理解のためのコミュニケーションカードを作り、留学生たちに配布した(図を参照)。

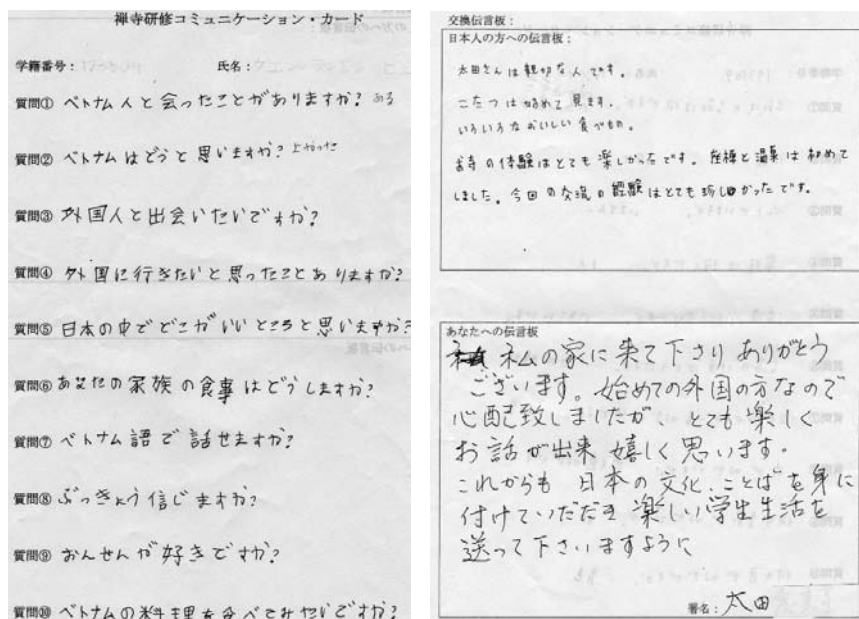


図1 禅寺研修コミュニケーションカード
表(左):ベトナム留学生、裏(右):台湾留学生

このコミュニケーションカードの表面は、留学生たちに事前に考えてもらった地域住民への 10 項目の質問表である。以下の 9 項目は本学の留学生たち（20 名）の用意した質問内容であった（西九州大学短期大学部は未実施）。そして、20 名の留学生のうち、この 9 項目について、それぞれ何名の留学生が質問を用意したのかをパーセンテージに算出し、グラフにした。（グラフを参照）

❶外国（訪問留学生の出身国・地域）のことについて

例：「ベトナムの料理を食べてみたいですか」

「韓国についてどう思いますか」

❷外国（訪問留学生の出身国・地域以外の国・地域）のことについて

例：「日本以外の国へ行ったことがありますか」

❸日本（長崎県）のことについて

例：「長崎県でいい観光地はどこですか」

❹日本（長崎県以外の都道府県）のことについて

例：「嬉野の特産物は何ですか」

❺日本（全国）のことについて

例：「日本で一番いいところはどこですか」

❻ホストファミリーのことについて

例：「かぞくは何人ですか」、「おしごとはなんですか」

❼日本人のことについて

例：「日本人はみんなウメボシが好きですか」

❽訪問留学生自身のことについて

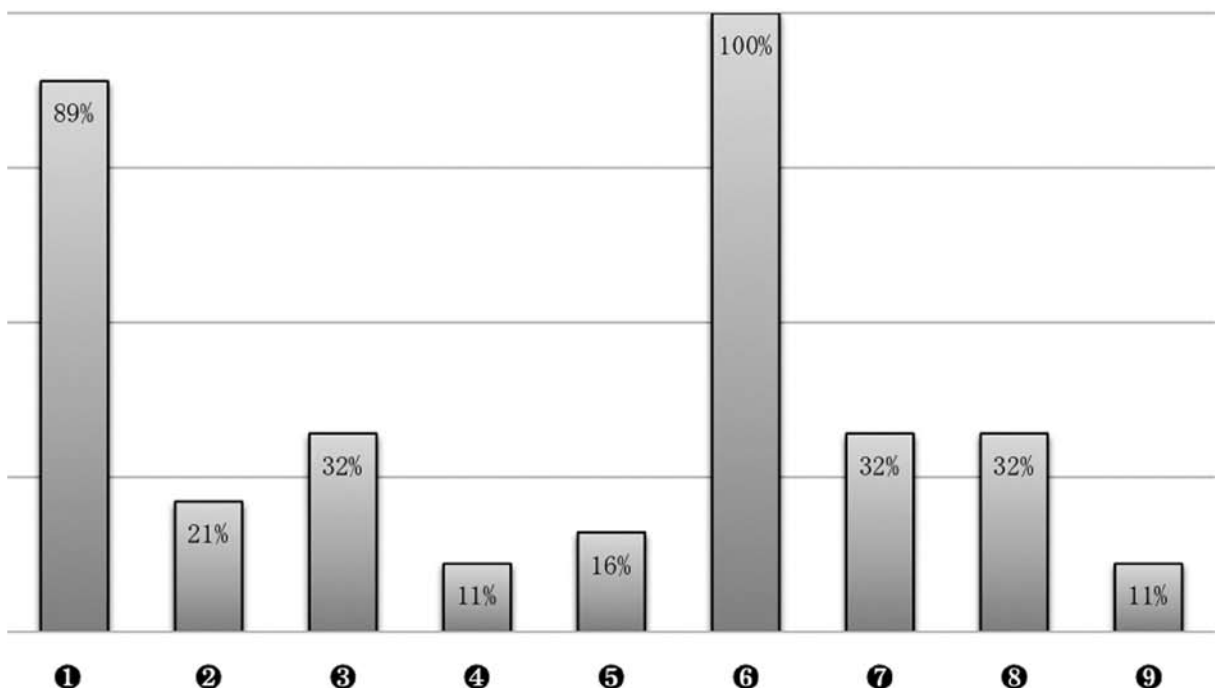
例：「わたしのにほんごがどうですか」、「わたしはかっこいいですか」

❾その他

例：「一億円があったら何をしたいですか」

※（留学生たちの日本語を修正せず掲載、以下同様）

グラフ：質問内容 9 項目のパーセンテージ（留学生 20 名）



結果を見てみると、項目⑥においては、20名の留学生が全員、訪問を受け入れてくれた地域住民の氏名、年齢、家族構成、仕事、趣味などについて様々な質問を用意し、ホストファミリーと積極的にコミュニケーションを図ろうとしたことがわかる。それに次いで、約9割の留学生が、出身国・地域に対するイメージ、関心、興味を把握するために項目①について地域住民に質問をした。また、日本のこと（項目③「32%」、④「11%」、⑤「16%」、合計59%）と日本人のこと（項目⑦「32%」）について、留学生たちは高い関心を持ち、留学先である日本を知りたいという強い意欲を示したのである。

コミュニケーションカードの裏面は、留学生たちと地域住民との交換伝言板である。その一部は、以下のとおりである（西九州大学短期大学部は未実施）。

留学生たちのコメント：

◆「…そこの住民も真面目に生活して、いろんな焼き物を製造しています。未来に波佐見町には九州の人気観光地になって頑張りましょう。」

◆「…お寺の体験はとても楽しかったです。たくさん異文化を体験しました。…温泉は初めてでした。また行きたいです。…今回の交流の経験はとても珍しいです。」

◆「…私の日本語がまだ苦手ですが、しかし親切に説明したり、様々な所を紹介してくれました。…」

◆「…その中に一番面白かったのはキムチのことでした。私が、キムチには多くの種類が在りますよ、って言ったら〇〇さんがびっくりしました。…」

◆「…ベトナム人が大好きと言ってくれました。とてもうれしかったです。…もしできたらもう一回波佐見町に行きたいです。そう思います。」

◆「とてもいろんな話もして、本当によかったです。それでまたもう一度行きたいと思いました。」

◆「こたつもはじめて見たので、とてもすごいと思いました。私も欲しいです。…」

地域住民のコメント：

▲「私の家に来て下さり、ありがとうございます。初めての外国の方なので、心配致しましたが、とても楽しくお話が出来、嬉しく思います。これからも日本の文化、ことば、を身に付けていただき、楽しく学生生活を送って下さいますように。」

▲「私達夫婦とても楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。」

▲「とても積極的に話し合い、とても楽しく過ごせました。又会うことを約束しました。ありがとう。」

▲「理解しながら一杯おしゃべりが出来、とても良かった。韓国の食事をお教えてもらい、楽しく過ごせました。ありがとう。」

▲「時間的に理解し合えるのは難しい。」

▲「日本語がとてもじょうずで、何でも話が出来て良かったです。」

▲「…お二人とも物腰のやわらかい素直そうな方達でした。家族の事や建物の事や神棚等についても質問が多く、とても意欲的でした。やはり日本のお正月には興味があられる様でお尋が多かったです。私の家の長女一家が十年近く仕事の都合でホーチミンに暮らし、…そんな事でお話もスムーズに出来、…なつかしきで、お話も途切れることなく出来ました。ありがとうございました。」

▲「日本の知らない家庭を訪問されるということで気になっていた事は全く心配ありませんでした。言葉も大体の事は解って通じました。お二人の留学生の御家族のこと、将来のことを2～3時間での語らいの中、食習慣や異文化の少しの違いは、あるのは当然でしょうし、ミャンマーという国の事は報道等で毎日の様に耳にすることが多い今日、更に身近に感じた時間でした。…」

IV. まとめ

今日、日本は少子高齢化、情報化、国際化などの更なる進展の中で、大きな変革期を乗り越えようとしている。このような状況の中で、国際感覚に優れ、世界で活躍できる人材の育成がますます必要となってくる。そういう観点から、留学生を通じた国際交流の意義の大きさは年々増大しつつある。本プログラムの実施を通して、地域住民が留学生との接触を通じて享受できる異文化交流の実は、波佐見町、佐世保市ないし長崎県の国際化にとり、計り知れぬものがあると思われる。

最後に、筆者の任期満了による退任のため、本プログラムは今回（2017 年度）を持ちまして終了することとなった。ここに、長年にわたり本プログラムの実施のために御尽力された方々に対して、心より深甚なる感謝の意を表したい。また、本学の留学生たちが周囲の温かな理解の下、良き留学生を送れることを願い、退任のお礼の言葉とさせていただく。

長崎短期大学研究倫理委員会承認【第 1813 号】